

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

平成24年**月**日（*）第*校時

2年*組35名

使用教室 2年*組 教室

指導者 略

教科書 東京書籍 新しい社会 歴史

1 単元 第2章 古代までの日本 1節 文明のおこりと日本の成り立ち

2 指導について

(1) 単元の趣旨（教材観）

本単元は、中学校における歴史学習の導入ともいえる位置づけにある。そのため、歴史学習の意味することや意義を考えていくことが大切であることを押さえていく必要がある。また、「地球の歴史のなかにおいて人類の歴史」を学ぶという他の単元にはない大きなスパンでの時間を意識させる必要がある。

具体的には、世界の諸文明の起こりと発展を理解させるとともに、人類が環境の変化など多様な要素の中で、歴史を築いてきたことを伝えていきたい。また、東アジア世界と関連させながら、わが国の成り立ちについて学習させたい。

(2) 生徒観

このクラスの生徒は、社会科に対する学習意欲は旺盛であり、授業の導入等で毎時間取り上げている時事に関する話題へも積極的な反応がみられる。歴史の学習については、小学校における学習内容の上に、歴史的事象そのものは勿論であるが、歴史的事象の因果関係などについて考える力を伸ばしていく必要があると考えている。そこで授業では、それぞれの歴史的事象について、ストーリーを追うことを大切にし、「なぜそうなったのか？」を考えさせる力を身に付けさせていくことを大切にしたい。

(3) 指導観

今回の授業で取り上げる場所は、人類の歴史のはじめの部分である。そこで、新しい知識を理解していくことも大切であるが、生徒の発言を積極的に引き出すことによって、小学校での歴史学習の習得程度を掘みながら、生徒の実態に即した授業展開を心がけていきたい。また、生徒たちに「なぜ？」という疑問をもたせることを重視した授業を展開していきたいと考えている。

3 単元目標

- (1) これから学ぶ人類の歴史が、地球の歴史と比較すると、はるかに短いものであるということを認識する。また、道具を使う、言葉話す、など人類の進化は段階的であり、長い年月をかけて今の生活に近づいていったことを理解する。
- (2) 狩猟・採集社会が農耕・牧畜の発達とともに変化していったこと、各地に生まれた世界の諸文明の特色と共通点について考える。また、仏教・キリスト教・イスラム教が生まれた時代背景に気付く。
- (3) 日本列島の誕生について旧石器時代と縄文時代の特徴について、比較・整理しながら理解を深める。
- (4) 稲作、金属器が伝わり変化してきた弥生時代の特色を理解するとともに、中国の史書を読み取りながら、当時の日本列島の状況について理解する。
- (5) 大和政権による国内の統一についてとらえる。また、中国・朝鮮半島との交流を通して東アジアとのかかわりについて理解するとともに、渡来人がわが国の社会に果たした役割に気付く。

4 単元の評価規準

(1) 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
世界各地の文明のおこりと我が国における国家の形成など、古代までの歴史的な事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとしている。	世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一と東アジアとのかかわりなどについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一と東アジアとのかかわりなどに関わる様々な資料を適切に選択して、活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解し、その知識を身に付けている。

(2) 学習活動における具体の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①テープを用いた人類の歴史の説明に関心を示し、これから学んでいく歴史学習についての意欲が見られる。	①ワカタケル大王銘の鉄刀、鉄剣から大和政権の発展について考察することが出来る。	①人類の進化とその広がりや、脳が発達する過程を図から読み取ることができる。 ②世界の古代文明について、それぞれの特色を表に適切にまとめている。 ③中国の史書に書かれた日本列島のようすを適切に読み取っている。 ④前方後円墳の分布図から大和政権の発展について適切に読み取ることができる。	①人類の出現の様子、文明の始まり、金属器や文字の使用などについて理解し、知識として身に付けている。 ②旧石器時代と縄文時代を比較してそれぞれの特色を理解し、知識として身に付けている。 ③稲作の広がりや金属器の利用などの弥生文化の特色を理解し、知識として身に付けている。 ④東アジアの国々とのかかわりを理解するとともに、渡来人が我が国の社会に果たした役割を知識として身に付けている。

5 指導と評価の計画 (全7時間)

学習内容	評価規準	評価方法等
1 世界の古代文明と宗教のおこり 4時間 (1) 人類の出現と進化 新石器時代 (本時) (2) 文明のおこり、文明の発展 宗教のおこり (3) ヨーロッパの古代文明とイスラム教 (4) 中国文明の発生	ア①、ウ①②、エ①②	発表・発言 資料の読み取り ノート
2 日本列島の誕生と縄文文化 1時間	エ②	ノート
3 弥生文化と邪馬台国 1時間	ウ③、エ③	資料の読み取り ノート
4 大王の時代 1時間	イ①、ウ④、エ④	資料の読み取り ノート

6 本時案

(1) 本時の目標

これから学ぶ人類の歴史が、地球の歴史と比較すると、極めて短いものであるということを認識する。また、道具を使う、言葉話す、など人類の進化は段階的なものであり、長い年月をかけて今の生活に近づいていったことを理解する。

(2) 本時の評価規準

テープを用いた人類の歴史の説明に関心を示し、これから歴史を学ぶことへの意欲が見られる。(ア 社会的事象への関心・意欲・態度)

人類の進化とその広がりや、脳が発達する過程を図から読み取ることができる。(ウ 資料活用の技能)

人類の出現の様子、文明の始まり、金属器や文字の使用などについて理解し、知識として身に付けている。(エ 社会的事象についての知識・理解)

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価等
導入 10分	<p>1 人類の出現と進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープを使って、地球の歴史とこれから学習する人類の歴史の長さを比較する。(グループ活動) ・これから学習する人類の歴史を大観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生、動物の誕生、人類の誕生と、順を追って考えさせる。 ・人類の歴史は地球の歴史の中で、極めて短いことを理解させる。 	ア① 発言・発表
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と他の動物と異なる点について、考えて発表する。(グループ活動) ※席を元に戻す。 ・人類の進化の過程をまとめる。 ・原人や新人の習慣や生活の様子から、人類の進化や文化の進展の様子を考察する。 ・新人の描いた洞穴壁画から当時の人々のようすを考察する。 ・旧石器時代、打製石器について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物と人類の違いについて確認させるとともに、猿人・原人・新人それぞれの人類の特徴についてまとめさせる。 ・猿人から原人に進化していく過程で、人類はどのような技術を生み出したのか整理させる。 ・旧人が埋葬する際には花をそえる習慣があった説があることを紹介する。 ・洞穴壁画から情報を読み取らせ、また文化遺産としての価値を認識させる。 	エ①② ノート ウ① 資料の読み取り
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の環境の変化と同時に、人々も生活を変化させていったことを確認する。 ・人間には環境に適応する力があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間には環境に適応する力があるということ気付かせる。 ・これから学んでいく歴史は、人類の努力の歴史であることを意識させる。 	